

## 安全データシート (SDS)

## 1 化学品及び会社情報

## 化学品の名称

製品名 オリシール (主剤)

製品コード

## 供給者の会社名称、住所及び電話番号

会社名称 株式会社折原製作所

担当部署

住所 〒329-1332 栃木県さくら市蒲須坂 280-2

電話番号 028-682-0181

Fax 番号 028-682-0185

電子メールアドレス

緊急連絡電話番号 028-682-0181

## 推奨用途

補修用

## 使用上の制限

上記の用途以外の使用はしない

## 2 危険有害性の要約

## 化学品の GHS 分類

## 物理化学的危険性

分類できない

## 健康有害性

皮膚腐食性／刺激性 区分 2

眼に対する重篤な損傷性／

眼刺激性 区分 2

皮膚感作性 区分 1

## 環境有害性

水生環境有害性 短期 (急性) 区分 1

水生環境有害性 長期 (慢性) 区分 1

## GHS ラベル要素

## 絵表示



**注意喚起語**  
**危険有害性情報**

警告  
皮膚刺激  
アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ  
強い眼刺激  
水生生物に非常に強い毒性  
長期継続的影響によって水生生物に非常に強い毒性

**注意書き**

[安全対策]

粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーの吸入を避けること。  
取扱い後はよく手を洗うこと。  
汚染された作業衣は作業場から出さないこと。  
環境への放出を避けること。  
保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。

[応急処置]

皮膚に付着した場合：多量の水／石けん（鹼）で洗うこと。  
眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。  
皮膚刺激が生じた場合：医師の診察／手当てを受けること。  
皮膚刺激又は発しん（疹）が生じた場合：医師の診察／手当てを受けること。  
眼の刺激が続く場合：医師の診察／手当てを受けること。  
汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。  
漏出物を回収すること。

[廃棄]

内容物／容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に依頼して廃棄すること。

**他の危険有害性**

情報なし

**重要な徴候及び想定される非常事態の概要**

皮膚刺激  
アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ  
強い眼刺激

### 3 組成及び成分情報

#### 化学物質・混合物の区別

混合物

#### 組成及び成分情報

化学名又は一般名	CAS 登録番号	官報公示 整理番号 (化審法・安衛 法)	濃度又は濃度範囲 (wt%) *
エポキシ樹脂（ビスフェノール A 型）**	25068-38-6	7-1279 7-1283	85
その他の成分	-	-	15

\*表記濃度は平均値

GHS 分類については、平均値を使用し検討している。

\*\*化学物質審査規制法 優先評価化学物質

#### GHS 分類に寄与する成分

エポキシ樹脂（ビスフェノール A 型）

### 4 応急措置

#### ばく露経路による応急措置

吸入した場合

空気の新鮮な場所に移す。

呼吸をしていないあるいは呼吸が不規則である場合は、訓練を受けたものが人工呼吸または酸素供給を行うこと。症状が続く場合は医師の診察を受けること。

皮膚に付着した場合

汚れた衣服をすぐに取り除くこと。

多量の石鹼と水で汚染された皮膚を洗い流し、汚染された靴と衣服を脱がせる。汚染された衣類は、脱ぐ前に手袋を着用し水で十分に洗う。症状が持続する場合は、医師の診断を受ける。

眼に入った場合

数分間流水下で洗眼する。コンタクトレンズの着用の有無を確認し、着用している場合にははずす。症状が持続する場合は、医師の診断を受ける。

飲み込んだ場合

飲み込まないこと。飲み込んだ場合は、直ちに医師の診察を受ける。口を水で洗い流す。医師の指示がある場合を除き、吐かせないこと。仰向けに寝ている間に嘔吐を起こした場合は、横向きにする。意識のない人に口で何も与えてはいけない。

#### 急性症状の最も重要な徴候症状

皮膚刺激

アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ

強い眼刺激

#### 遅発性症状の最も重要な徴候症状

情報なし

## 応急措置をする者の保護に必要な注意事項

救助者は、状況に応じて適切な眼、皮膚の保護具を着用する。

## 医師に対する特別な注意事項

情報なし

---

## 5 火災時の措置

---

### 適切な消火剤

CO<sub>2</sub>、粉末消火剤、水噴霧。

大規模な火災には、水噴霧またはアルコール耐性泡消火剤を使用する。

いずれも環境に適した消火方法を用いる。

### 使ってはならない消火剤

情報なし

### 火災時の特有の危険有害性

火災等の場合は、毒性の強い分解生成物（一酸化炭素と二酸化炭素）が発生する可能性がある。

### 特有の消火方法

消火活動は風上から行う。

火災場所の周辺には関係者以外の立ち入りを規制する。

危険でなければ火災区域から容器を移動する。

### 消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置

自給式呼吸器を着用すること。適切な消火防護服を着用する。爆発ガス、燃焼ガスを吸入しないこと。

---

## 6 漏出時の措置

---

### 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

関係者以外の立ち入りを禁止する。

作業者は適切な保護具（「8 ばく露防止及び保護措置」の項を参照）を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。

風上から作業すること。

### 環境に対する注意事項

環境汚染を避けるために適切な封じ込めを使用する。

### 封じ込め及び浄化の方法及び機材

十分な換気を行う。

適切な容器に回収し廃棄すること。

吸収材（砂、珪藻土、酸結合剤、万能結合剤、おがくず等）で吸収する。

汚染物質を廃棄物として処理する。

## 二次災害の防止策

すべての発火源を速やかに取り除く（近傍での喫煙、火花や火炎の禁止）。  
排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

---

## 7 取扱い及び保管上の注意

---

### 取扱い

技術的対策	「8 ばく露防止及び保護措置」に記載の措置を行い、必要に応じて保護具を着用する。
安全取扱注意事項	十分な換気と必要に応じて局所排気装置を設ける。 エアロゾルの発生を防ぐ。 粉塵が発生しないようにする。 皮膚や眼に触れないようにする。
接触回避 衛生対策	過熱、紫外線、日光、着火源等 食前、喫煙前、トイレの使用前、終業時に手を洗う。 汚染された可能性のある衣服の除去には、適切な技術を用いること。 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。 汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。

### 保管

技術的対策	保管場所には危険・有害物を貯蔵し、又は取り扱うために必要な照明及び換気の設備を設ける。 静電気放電に対する予防措置を講ずること。
混触禁止物質 保管条件	強酸、強塩基、強酸化剤、メルカプタン、アミン等 屋内、冷所、乾燥した場所で保管する。 元の容器で密閉して保管すること。 紫外線及び日光を避けること。
安全な容器包装材料	食品、飲料、飼料から遠ざけること。 破損や漏れの無い密閉可能な容器を使用する。

---

## 8 ばく露防止及び保護措置

---

### 管理濃度

設定されていない

### 許容濃度

ACGIH TLV-TWA (2022)	設定されていない
ACGIH TLV-STEL (2022)	設定されていない
日本産業衛生学会 (2021)	設定されていない

### 設備対策

適切な換気を行うこと。  
取り扱いの場所の近くに、洗眼および身体洗浄のための設備を設ける。  
高温下や、ミストが発生する場合は換気装置を使用する。

**保護具**

呼吸用保護具	短時間ばく露または汚染が低い場合は、呼吸用フィルターを使用する。 集中的または長期ばく露の場合は、循環空気に依存しない呼吸用保護具を使用する。
手の保護具	耐薬品性の不浸透性手袋を着用する。
眼及び/又は顔面の保護具	通常の取り扱い時は安全メガネを着用すること。 本製品が密閉され保管中に加熱処理、または包装開封時は密閉型ゴーグルを着用すること。
皮膚及び身体の保護具	適切な保護衣を着用する。

**特別な注意事項**

情報なし

**9 物理的及び化学的性質**

物理状態	液体
色	情報なし
臭い	微臭
融点／凝固点	情報なし
沸点又は初留点及び沸点範囲	> 260°C
可燃性	情報なし
爆発下限界及び爆発上限界／可燃限界	情報なし
引火点	249°C
自然発火点	情報なし
分解温度	情報なし
pH	情報なし
動粘性率	情報なし
溶解度	混和しない、または混合しにくい
<i>n</i> -オクタノール／水分配係数（log値）	情報なし
蒸気圧	情報なし
密度及び/又は相対密度	情報なし
相対ガス密度	情報なし
粒子特性	該当しない
その他のデータ	情報なし

**10 安定性及び反応性**

反応性	通常の実験条件下では安定である。
化学的安定性	通常の実験条件下では安定である。
危険有害反応可能性	エポキシ樹脂触媒(メルカプタン/アミン)と混合すると、有害な重合が起こることがある。過剰な発熱反応は、より大きな塊(> 50 g)に混合された場合に起こる。
避けるべき条件	過熱、紫外線、日光、着火源等
混触危険物質	強酸、強塩基、強酸化剤、メルカプタン、アミン等
危険有害な分解生成物	火災等の場合は、毒性の強い分解生成物（一酸化炭素と

二酸化炭素）が発生する可能性がある。

## 11 有害性情報

### 製品の有害性情報

急性毒性	情報なし
皮膚腐食性／刺激性	一次刺激性：皮膚刺激性がある
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	一次刺激性：粘膜へ刺激性がある
呼吸器感作性又は皮膚感作性	呼吸器感作性：情報なし 皮膚感作性：皮膚接触により感作性を起こす可能性がある。
生殖細胞変異原性	情報なし
発がん性	情報なし
生殖毒性	情報なし
特定標的臓器毒性（単回ばく露）	情報なし
特定標的臓器毒性（反復ばく露）	情報なし
誤えん有害性	情報なし

### 成分の有害性情報

#### エポキシ樹脂（ビスフェノール A 型）

急性毒性（経口）	区分に該当しない ラット LD <sub>50</sub> = 11,400 mg/kg
急性毒性（経皮）	分類できない ラット LD <sub>50</sub> ≥ 1,600 mg/kg に基づき、区分 4 以上に分類されると考えられるが、確定値が得られていないので、「分類できない」とした。
急性毒性（吸入：ガス）	区分に該当しない 物質の定義による液体（20℃, 1 気圧）であるため、ガスでの吸入は想定されず、区分に該当しないとした。
急性毒性（吸入：蒸気）	情報なし
急性毒性（吸入：粉じん／ミスト）	情報なし
皮膚腐食性／刺激性	区分 2 ウサギに対する皮膚一次刺激性試験結果の記述「皮膚刺激性について刺激性なしから中等度の刺激性を有する」から、4 時間適用試験結果はないが、刺激性を有すると考えられ、区分 2 とした。
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	区分 2B ウサギに対する眼刺激性試験結果の記述「刺激性なしから軽度の刺激性を有する」から、軽度の刺激性を有すると考えられ、区分 2B とした。
呼吸器感作性又は皮膚感作性	呼吸器感作性：情報なし 皮膚感作性：区分 1 ヒトにおける症例研究やボランティア試験の結果、また、モルモットに対する皮膚感作性試験結果の記述及び日本職業・環境アレルギー学会による「皮膚感作性物質」という分類結果から、皮膚感作性を有すると考えられ、

生殖細胞変異原性	区分1とした。 区分に該当しない 経世代変異原性試験（優性致死試験）で陰性、生殖細胞 <i>in vivo</i> 変異原性試験（染色体異常試験）で陰性、体細胞 <i>in vivo</i> 変異原性試験（小核試験、染色体異常試験）で陰性であることから、区分に該当しないとした。
発がん性	分類できない 既存分類がないため、分類できない。
生殖毒性	区分に該当しない 生殖毒性試験、催奇形性試験のいずれにおいても、親動物毒性がみられる用量で生殖及び発生への影響がみられていないことから、区分に該当しないとした。
特定標的臓器毒性（単回ばく露）	データ不足のため、分類できない。
特定標的臓器毒性（反復ばく露）	データ不足のため、分類できない。
誤えん有害性	情報なし
その他の成分	
急性毒性	情報なし
皮膚腐食性／刺激性	情報なし
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	情報なし
呼吸器感作性又は皮膚感作性	呼吸器感作性：情報なし 皮膚感作性：情報なし
生殖細胞変異原性	情報なし
発がん性	情報なし
生殖毒性	情報なし
特定標的臓器毒性（単回ばく露）	情報なし
特定標的臓器毒性（反復ばく露）	情報なし
誤えん有害性	情報なし

## 12 環境影響情報

### 製品の環境影響情報

生態毒性	情報なし
残留性・分解性	情報なし
生物蓄積性	情報なし
土壌中の移動性	情報なし
オゾン層への有害性	情報なし

### 成分の環境影響情報

#### エポキシ樹脂（ビスフェノール A 型）

生態毒性	水生環境有害性 短期（急性）区分1 甲殻類（オオミジンコ）の48時間 EC <sub>50</sub> = 1.7 mg/L 他から、本物質の水溶解度（0.041 mg/L）において当該毒性が発現した可能性が否定できないため、区分1とした。 水生環境有害性 長期（慢性）区分1
------	--



急性毒性が区分1、生物蓄積性が低いものの、急速分解性がないことから、区分1とした。

残留性・分解性	BODによる分解度：0%
生物蓄積性	BCF ≤ 42
土壤中の移動性	情報なし
オゾン層への有害性	該当しない

#### その他の成分

生態毒性	水生環境有害性 短期（急性） 情報なし
	水生環境有害性 長期（慢性） 情報なし
残留性・分解性	情報なし
生物蓄積性	情報なし
土壤中の移動性	情報なし
オゾン層への有害性	該当しない

### 13 廃棄上の注意

#### 化学品汚染容器及び包装の安全で、かつ、環境上望ましい廃棄、又はリサイクルに関する情報 残余廃棄物

家庭ゴミと一緒に廃棄しないこと。

製品を下水道等に流さないこと。

本製品の溶液および副生成物の廃棄は、常に環境保護、廃棄物処分法ならびに地域の地方自治体の要求事項に準拠すること。

#### 汚染容器及び包装

容器は洗浄してリサイクルするか、関連法規制ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。

空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

### 14 輸送上の注意

#### 国際規制

陸上輸送（ADR/RIDの規定に従う）

国連番号	3082
品名（国連輸送名）	環境有害物質、液体、他に品名が明示されていないもの
国連分類	9
副次危険性	-
容器等級	III

海上輸送（IMOの規定に従う）

国連番号	3082
品名（国連輸送名）	環境有害物質、液体、他に品名が明示されていないもの
国連分類	9
副次危険性	-
容器等級	III

## 航空輸送（ICAO/IATAの規定に従う）

国連番号	3082
品名（国連輸送名）	環境有害物質、液体、他に品名が明示されていないもの
国連分類	9
副次危険性	-
容器等級	III

## 海洋汚染物質

該当

## MARPOL73/78 附属書II 及びIBC コードによるばら積み輸送される液体物質

非該当

## 輸送又は輸送手段に関する特別の安全対策：

輸送に際しては、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。

## 国内規制

陸上規制情報	消防法に該当する可能性がある。
海上規制情報	船舶安全法に従う。
航空規制情報	航空法に従う。

## 15 適用法令

## 該当法令の名称及びその法令に基づく規制に関する情報

化学物質排出把握管理促進法	該当しない
労働安全衛生法	名称等を表示すべき危険物及び有害物（4,4'-イソプロピリデンジフェノールと1-クロロ-2,3-エポキシプロパンの重縮合物（液状のものに限る。））（1重量%以上を含有する製剤その他の物）（2025年4月1日以降） 名称等を通知すべき危険物及び有害物（4,4'-イソプロピリデンジフェノールと1-クロロ-2,3-エポキシプロパンの重縮合物（液状のものに限る。））（0.1重量%以上を含有する製剤その他の物）（2025年4月1日以降） 変異原性が認められた既存化学物質（ビスフェノールA型エポキシ樹脂中間体）含有するもの、1重量%以下のものを除く
毒物及び劇物取締法	該当しない

## その他の適用される法令の名称及びその法令に基づく規制に関する情報

化学物質審査規制法	優先評価化学物質（4,4'-イソプロピリデンジフェノールと1-クロロ-2,3-エポキシプロパンの重縮合物）液状のものに限る
労働基準法	疾病化学物質（ビスフェノールA型エポキシ樹脂及びビスフェノールF型エポキシ樹脂） 感作性を有するもの（ビスフェノールA型及びF型エポ

	キシ樹脂)
消防法	危険物 第四類引火性液体第四石油類
海洋汚染防止法	有害液体物質 (X 類物質) (ビスフェノール A エピクロロヒドリン樹脂)
航空法	環境有害物質 (液体)
船舶安全法	環境有害物質 (液体)
外国為替及び外国貿易法	輸出貿易管理令別表第 1 の 16 の項 (ポリアセタールその他のポリエーテル、エポキシ樹脂及びポリカーボネート、アルキド樹脂、ポリアリルエステルその他のポリエステル (一次製品に限る。))

---

## 16 その他の情報

---

### 参考文献

株式会社折原製作所提供資料

NITE GHS 分類結果一覧 (2022)

日本産業衛生学会 (2021) 許容濃度等の勧告

ACGIH, American Conference of Governmental Industrial Hygienists (2022) TLVs and BEIs.

【注意】本 SDS は、JIS Z 7253:2019 に準拠し、作成時における入手可能な製品情報、有害性情報に基づいて作成していますが、必ずしも十分ではない可能性がありますので、取扱いにはご注意ください。本 SDS の記載内容については、新しい知見等がある場合には必要に応じて変更してください。また、注意事項等は通常の取扱いを対象としたものですので、特別な取扱いをする場合には用途・条件に適した安全対策を実施の上、お取扱い願います。